

令和8年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の児童（第6学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせいたします。

■実施日時：令和8年4月23日（木）

■参加者数：小学校7校 児童数 6年生 307名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果（評価）

	国語	算数
小学校6年	全国よりやや低い 県とほぼ同等	全国よりやや低い 県とほぼ同等

- ・教科に関する調査の平均正答率は、国語、算数ともに全国平均をやや下回り、県平均とほぼ同等です。（文部科学省では「±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できる」と示しています）

(2) 各教科の状況について ○＝平均正答率が高い問題 ●＝平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 ●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 ●考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。 ●引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
算数	○小数も整数と同じ十進位取り記数法で表されることを理解し、条件に合う小数をつくることができる。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。 ●基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。 ●単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から混み具合の比較・判断ができる。 ●体積の意味について理解している。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・国語・算数ともに、平均正答率は全国平均をやや下回る状況にあり、基礎・基本の定着に向けた継続的な課題克服が求められます。
- ・観点別では、特に算数の「思考力・判断力・表現力」において課題が見られ、問題解決の過程や判断の理由を言葉や数・図を用いて筋道立てて説明・記述する力の育成が求められます。
- ・全体的に無解答率は全国平均・県平均と同等または低く抑えられており、特に記述式の問題において全国より低い傾向があることから、最後の問題まで粘り強く取り組む姿勢が継続して伺えます。

②各教科の状況

【国語】

- ・「話や文章の種類とその特徴の理解」で高い正答率を示しており、日常的な言語の特徴や基礎的な知識・技能は定着が見られます。
- ・「文章を読んで理解したことに基づき自分の考えをまとめる」でも高い正答率を示しており、文章の内容を正しく捉え、諦めずに自分の言葉で表現する姿勢が伺えます。
- ・「考えと理由・事例など情報同士の関係理解」や「図などによる関係の理解」が低く、説明的な文章や図表から必要な情報を抽出し、整理・比較する「情報の扱い方」に課題が見られます。
- ・「文章全体の構成や展開の考慮」や「引用による表現工夫」で低調であり、事前構成メモの活用や、目的・相手に応じた効果的な文章作成・推敲指導の充実が求められます。

【算数】

- ・「十進位取り記数法の仕組みによる小数作成」や「帯グラフからの数量読み取り」は高く、基礎的な計算の技能や表・グラフの単純読解力は定着しています。
- ・「体積の意味」や「単位量当たりの大きさ」、「割合の図選択」で低く、具体物操作や視覚的図表現を通じた抽象概念の深層理解に課題が見られます。
- ・「表の集計誤りの根拠記述」や「異分母分数の比較理由」、「直方体の三辺に着目した求め方の記述」に課題があり、単に答えを求めるだけでなく、「なぜその解き方になるのか」の理由や過程を言葉・数式・図を用いて筋道立てて説明・記述する言語活動の強化が必要です。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果について（児童質問紙による意識調査から）

【○望ましい項目 ●課題とみられる項目】

- 「朝食の摂取」や「規則正しい就寝・起床」が高い水準で定着しています。また、「先生がよいところを認めてくれている」という強い実感や、高い自他肯定感、豊かな規範意識（助け合い・いじめ否定・貢献意欲）が安定して保持されています。
- 「学級生活をよくするための学級会での話し合いと合意形成」や「道徳・総合的な学習における対話・探究活動」に非常に高い肯定率を示しており、子ども同士で意見を生かし合い、共に高め合おうとする自治的な学級風土が育っています。
- 「間違えたところを分かるまで教えてくれる」や「うまくいかない部分と改善方法の具体的伝達」において全国平均を大幅に上回り、自分に合った学習方法の実感やICT端末を用いた情報収集への自信など、日常の授業改善の成果が表れています。
- 平日・休日ともに家庭学習の時間が短い児童が多い状況にあり、新聞離れもみられます。
- 「国語が得意である」と明確に回答した児童の割合が全国平均を下回っており、言語能力や文章読解・表現に対する苦手意識への手立てが必要です。

3 今後の取り組みについて（学力向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します）

□基礎学力の定着に向けて

- ・朝学習や補習、家庭学習等での反復指導を継続し、基礎・基本の定着を図ります。
- ・タブレット端末やデジタルドリル等を活用し、弱点に応じた個別最適な学習を進めます。

□主体的・対話的で深い学びに向けて

- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させられるよう、ICT機器を効果的に活用しながら学習者主体の授業づくりを積極的に進めていきます。
- ・ペア学習やグループワークを通じた「学び合い」の活動を充実させ、互いの考えを共有し根拠を伝える主体的・協働的な学びを推進します。

□生活習慣や学習環境等の向上に関して

- ・基本的な生活習慣、家庭学習習慣の定着に向けて、家庭との連携を図ります。
- ・朝読書などの読書活動を推進するとともに、家庭と連携して新聞や時事ニュースなどの活字情報に接する機会を広げ、豊かな語彙力と思考力を育みます。
- ・富士山学習における「地域を知る学習」と「交流活動」において、地域の人材を積極的に教育活動に活用しながら充実を図り、自分の住む地域に関する興味・関心を高めます。
- ・コミュニティ・スクールとして、学校や児童に関わる課題を共有し、地域と協力していきます。

子どもたちは、自己肯定感や規範意識を高めながら、夢や希望を持って生き生きと学校生活を送っています。今後も、一人一人が目標に向かって輝くことができるよう、学校、家庭、地域の連携を深め、子どもたちの成長を支えていきたいと思います。

【問い合わせ先】

富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所
TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766